

## 【活動レポート】11/23 外語祭障がい者ガイドボランティア

今回、府中市立心身障害者福祉センターみ～なの職員の方からのご依頼を受け、11月23日、障がいを持つ方々を外語祭に案内するボランティアを行いました。

11時に外大に到着し、まずは外の料理店巡り。珍しい料理を堪能した後、中に入って自分の名前を様々な文字で書いてみたり、ポルトガルの歴史の展示、アカペラサークルのライブ、ボランティア活動の写真展などを見て回りました。

実際にみなさんに会う前は、どのような人たちなのか、どう接すればいいのか、どんなことを求めているのかなどと不安に思うことも多かったのですが、管理棟の前で会い、お互いに自己紹介をした時点で、その不安というものは一瞬にして消えていきました。語弊があるかもしれませんが、私が思っていた以上に「普通」だなあという印象を受けたのです。もちろん、車いすであったり、麻痺により言葉が聞き取りづらかったりなどという点もありますし、少し気が難しいところがある方もいらっしゃったかもしれませんが。しかし私が「障がい者」として認識していた人々が、各々の名前の〇〇さん、□□さんになり、各々の個性として見ることが出来るようになったことで「普通」だなあという印象になったのだと思います。（そういえば、世界を旅をしている時にも、同じように思った記憶があります。～人、～人と確かに特徴はあるけれど、「あ、普通じゃん」と何度も何度も思いました。）

おかげでその後は自然体で、とにかく外語祭を楽しんでもらうために案内をすることが出来ました。

頭で思っていることと、実際に体験して感じることには大きな差があります。私も、ニュースや様々なコラムを読み、「障がいを持っている方」への配慮や理解はしていたつもりでしたが、実際には頭で理解しようとするあまりに「障がい者」をカテゴリー化してしまっていたのだなあ実感させられました。もっとフラットに、様々な人と関わってあげたいなあ。

偶然が重なりやることになった今回の活動でしたが、自分の世界の狭さを再び痛感させられたと共に、来て下さった皆さんにも楽しんでいただけて、ただただ、いい時間を過ごせたなと思います。

(言語文化学部英語3年 関谷昂)

日時: 2016年01月06日